慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	「経営哲学」と「経営技法」 - 自分史の作成を通じての経営者教育 -
Sub Title	
Author	鈴木清太(Suzuki, Seita) 高木晴夫
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1513号 その他:閲覧・ 複写とも不可
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1513

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	高木 研究会	学籍番号	89828432	氏名	鈴木　清太

（論文題名）

「経営哲学」と「経営技法」

－自分史の作成を通じての経営者教育－

（内容の要旨）

日本における企業の数の約 80%は、中小企業である。日本経済の屋台骨を支えているのはこの中小企業であると言っても過言ではない。その中小企業の後継者育成は、その企業にとって未来を左右する大きな問題となっている。一方で、近年企業家教育がブームを迎えている。幼少期から将来の企業家として新しい教育を行なおうというものである。

そんな折、私自身が生まれてからこれまでの約 25 年間、家庭の中で、企業家教育を受けて来たことに気が付いた。青果卸売業を営む祖父、富田儀三から経営とは何か、商売とは何かを、日々の生活の中で叩き込まれてきた。これは誰もが経験できることではなく、非常に希な、また貴重な体験である。ある意味では、祖父から譲り受けた膨大な知的財産が眠っているのである。

そこで、まず私自身の自分史の作成を行なうことにより、その知識を文字化することを試みた。そして、その作成を通じて、「経営」の本質にアプローチをしようと考えたのである。

自分史から選られた結論は、私の受けてきたこれまでの経営者教育は、主に「経営哲学」に関するものであったという結論に達した。経営のテクニックに関すること、本書では「経営技法」と呼ぶが、「経営技法」に関する教育は受けていなかったのである。

さらに、著名な経営者 6 人を調査することにより、創業者型の経営者は、経営哲学に関する見解が多く存在し、専門経営者型の経営者は経営技法に関する見解が多く存在することを掴んだ。しかし、両者とも「経営哲学」「経営技法」どちらか一方を能力として保持していれば良いのではなく、それぞれの立場に応じて「経営哲学」と「経営技法」をバランス良く持ち合わせることが大切だとの結論に達した。